
ゼロの使い魔は.....

池宮樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロの使い魔は……

【コード】

N7030Y

【作者名】

池宮樹

【あらすじ】

思いついたが吉日。書きちゃったんだから仕方ない。

(前書き)

ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール嬢が理想の使い魔を召喚したようです。

ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエールは
何度もその魔法を唱えてはうまくいかないことに内心泣きたい気持
ちで一杯であったが、諦めるわけにはいかなかった。

トリステイン王立魔法学院の春の使い魔召喚は神聖な儀式であり、
そこで使い魔を呼び出せなかったものは『進級できない』からであ
る。

いくら自分がトリステイン王国でも有数の大貴族であるヴァリエ
ールの娘であっても、ルールはルール。ここで使い魔を呼び出せな
ければ自分は実家に帰らなくてはならないだろうし、もう貴族とし
ても生きていけない 『メイジ』でなければ貴族ではないのだけ
ら。

だから歯を食いしばってルイズは頑張った。もう『ゼロ』と呼ば
せないために。自分が貴族に、ヴァリエール家にふさわしい人間で
ある事を証明する為に。

「ミス・ヴァリエール、あなたはよく頑張りました。少し休憩を…
…」

「もう一度！ もう一度やらせてください！」

引率のコルベール先生の声を抑えて、もう一度と嘆願するルイズ。

もう何度唱えただろうか？ 『サモン・サーヴァント』の呪文を。

そこでルイズはあることを思い出した。

（魔法はイメージが重要だっているんな文献に書いてあったわ。そうよ！ 私に足りなかったのはイメージ、明確なイメージなんだわ！）

土壇場で希望の光りを見出したルイズは、自分の心に理想の使い魔の条件を思い浮かべていく。

（……まずは『有能』で『便利』な使い魔が良いわ。あとはそうね、『ゼロ』って呼ばれてる私を『馬鹿にしない優しさ』のある、『賢い』使い魔！ これね！ あとはちょっと『かわいさ』なんかがあれば最高ね！ よし行くわよ、ルイズ！）

「我が名はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール！ 私にふさわしい『有能』で『便利』で私を『馬鹿にしない優しさ』を持ちながらもすごく『賢い』、それでいて『かわいさ』のある使い魔よ！ 運命に従って我が導きに答えよ！」

（お願い来て！ 私の使い魔！ 少しくらい『抜けた』ところがあってもいいから、誰にも『馬鹿に出来ないほどすごい』やつが！）

願いが通じたのだろうか？ そして爆煙とともにそれは現れた。

「おい！ 『ゼロ』のルイズが何か変なものを呼び出したぞ！」

観客と化していたルイズの同級生達がざわめく。ルイズは自分が使い魔の召喚に成功した事を知り歓喜に包まれた。そうそこには彼女が望んだとおりの『有能』で『便利』で私を『馬鹿にしない優しさ』を持ちながらもすごく『賢い』、それでいて『かわいさ』のある使い魔がいたのだから。

少々『抜けて』もいるが。

そう爆煙が晴れたその先には 。

「なんだい、のび太くん！ これは何のイタズラだい！」

未来の世界のネコ型ロボットがどら焼き片手に座っていたのだから！

(後書き)

やっちゃんいました！ だが後悔はしていない！

C V ルイズ 釘宮理恵 ドラえもん 大山のぶ代
でお送りしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7030y/>

ゼロの使い魔は.....

2011年11月21日09時42分発行